

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創設122年を迎える府立富田林高等学校に大阪府立初の（併設型）中高一貫校として併設された本校は、6年一貫した教育を通して生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）の育成を使命とするとともに、未来に向けた挑戦を続ける。

<中高一貫校としてめざす学校像>

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

<中高一貫教育を通して育みたい力>

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。

ア 45分×7限授業（35単位時間（45分授業））により、2学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。

イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。

ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。

エ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。

オ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用するなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。

カ 「1人1台端末」の効果的活用を進め、その情報共有を図る校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。

※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度を令和6年度まで90%以上を維持する。（R1 86% R2 92% R3 93%）

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。

ア・スーパーサイエンスハイスクールとして「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO等）と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。

イ・学力向上推進委員会が中心となって、中高一貫した進路指導実現のための様々な取組みの具現化を図る。

※（生徒向け）学校教育自己診断における「探究活動の満足度」を令和6年度まで85%以上を維持する。（R1 83% R2 85% R3 86%）

また、「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度を令和6年度には80%以上をめざす。

（R1 75% R2 78% R3 77%）

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励し文武両道をめざす。

イ 人権教育を推進するとともに、国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。

ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度を令和6年度まで90%以上を維持する。（R1 89% R2 92% R3 99%）

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（マレーシア、台湾、ベトナム、タイ、オーストラリア、アメリカ等）の充実及び新たな交流国の開拓

イ ・台湾姉妹校や、高校との連携による高校姉妹校との交流の継続

・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。

※（生徒向け）学校教育自己診断結果で「国際交流等を通じたグローバルな視野とコミュニケーション力の育成」を令和6年度まで90%以上を維持する。

（R1 93% R2 96% R3 93%）

4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を明確にし、6年一貫した教育活動の充実を図る。

ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を策定すべく、それぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。

イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。

ウ 中高一貫校として、またコミュニティ・スクールとして相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度を令和6年度には90%以上をめざす。（R1 88% R2 92% R3 88%）

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティ・スクールとして広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・自治体・NPO等）と連携のもと魅力ある学校づくりの推進

イ 安全・安心な学校づくり

ウ 地域貢献を推進

※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度を令和6年度まで90%以上を維持する。

（R1 96% R2 96% R3 95%）

5 働き方改革の推進

(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。

ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。

イ 校務の見直しによる業務の軽減化

ウ 「外部人材の活用等人的措置」により教職員の負担軽減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 4 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>() 内は昨年度</p> <p>1. 学校満足度</p> <p>*生徒・保護者ともに満足は高い。</p> <p><主な結果></p> <p>(生徒)「富田林中学校に入学してよかった」94% (95)</p> <p>(保護者)「富田林中学校で学ばせることが出来てよかった」95% (97)</p> <p>2. 学力の育成</p> <p>*授業改善にむけた取組みがさらに進んだことがわかる。(生徒回答)</p> <p>*保護者は学力の育成に対する取組みに概ね満足。</p> <p>*一人一台端末の活用については生徒 (94)、保護者 (81) とともに活用に関する満足度は高い。</p> <p>*必要な宿題の量と生徒の家庭学習状況のバランスの調整が引き続き必要。</p> <p><主な結果></p> <p>① 授業</p> <p>(生徒)「わかりやすく興味を持てる授業」89% (93)</p> <p>「内容を深く考えさせる授業」90% (93)</p> <p>「学習端末の効果的な活用」94% (新規)</p> <p>(保護者)「学校の学習活動への取組に満足」88% (90)</p> <p>(教員)『主体的・対話的で深い学び』を意識した授業」95% (83)</p> <p>「生徒がタブレット端末を活用する授業」90% (新規)</p> <p>「授業方法等を検討する機会」90% (83)</p> <p>② 家庭学習</p> <p>(生徒)「宿題の量は適切である」60% (63)</p> <p>*家庭学習については ICT、すき間時間の活用、個別最適化等に関連した内容が加味されるよう見直しを図る。</p> <p>3. 学校生活</p> <p>*生徒が学校生活について主体的に考え、生徒同士が高め合い認め合える学校づくりを推進していく。また、教員が生徒理解に基づいた指導方法の習得及び改善を進めることが引き続き必要。</p> <p><主な結果></p> <p>(生徒)「生活指導に満足」83% (91) 「いじめ対応に満足」85% (94)</p> <p>「悩みを相談できる先生」62% (63)</p> <p>「悩みを相談できる友人等」80% (86)</p> <p>4. 特色ある取組、豊かな感性</p> <p>*本校独自のグローバル教育についての取組み及び学校行事に関して生徒・保護者両者は概ね満足。</p> <p>*海外に行くことは難しかったが、JICA 派遣員との交流や、校内、寺内町イングリッシュキャンプ、ZOOM でのトルコとの文化交流など、外国人や外国文化と触れ合う機会は継続的に作ることができた。</p> <p>*総合的な学習の時間などの探究活動については、中学3年生で、地域への貢献意識が持てるように3年間を通じて、プログラミングを改変した。</p> <p><主な結果></p> <p>① 国際教育</p> <p>(生徒)「グローバルな視野とコミュニケーション力育成に満足」</p> <p style="text-align: right;">94% (93)</p> <p>(保護者)「国際交流満足度」92% (92)</p> <p>② 探究活動</p> <p>(生徒)「探究活動(深く考え、情報を収集し、発表する力の育成)」</p> <p style="text-align: right;">83% (86)</p> <p>(教員)「探究活動(深く考え、情報を収集し、発表する力の育成)」</p> <p style="text-align: right;">84% (83)</p> <p>③ 学校行事</p> <p>(生徒)「学校行事への満足度」96% (99)</p> <p>(保護者)「学校行事への満足度」95% (89)</p> <p>5. 情報発信</p> <p>*学校からの情報発信については概ね良好である。</p> <p><主な結果></p> <p>(生徒)「情報発信に満足」83% (90)</p> <p>(保護者)「情報発信に満足」89% (88)</p> <p>(生徒)「学校からの連絡を保護者に伝えている」86% (86)</p> <p>(保護者)「学校からの連絡を子ども通じて把握」65% (65)</p> <p>6. 学校経営</p> <p>*学校経営方針は明確化されている。</p> <p>*中・高教員間連携については6年目を迎え連携が本格化した。そのため新たな課題に対する検討が必要。</p> <p>*中高一貫校の中学校長としての役割を明確にするとともに、産学官協働による教育活動を推進する。</p> <p><主な結果></p> <p>(保護者)「教育理念や学校運営方針の表明」91% (90)</p> <p>(保護者)「新しい教育活動への対応」92% (88)</p> <p>(教員) 「分掌、教員間、中・高教員間の連携」68% (25)</p>	<p><u>第1回(令和4年6月23日(木))</u></p> <p>○フリースクール(トゥルーカラーズ)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に入ることができない生徒の居場所、学びの場所になっている。 ・教職員は様子を見に行くことがあるのか。(質問) ←定期的に学校とフリースクールで会議を持ち、情報共有をしている。 <p>○中学制服検討に係る進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は子供たちのことを考えて、いろいろな観点から検討してくれている。 <p>○富田林中学校・高等学校の教育活動全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとして、地域と学校が一緒に育っていくことが大切である。 ・子供たちの自己肯定感を育てる手伝いができればいい。 ・教職員の苦勞も分かるので、無理をせず休養を取りながら勤務してもらいたい。 <p>※本年度学校経営計画に「通級指導教室」「SSHⅡ期指定」「スクール・ミッション作成」を追記することを承認。</p> <p>※フリースクールとの提携(出欠・成績・考査監督等の扱い)を継続することを承認。</p> <p><u>第2回(令和4年11月30日(水))</u></p> <p>○富田林高校のスクール・ミッションならびにスクール・ポリシーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容はこれでよい。 ・文科省の内容に則って、さらにその上をめざそうとしている。 ・緻密でこまやか、どんなふうに進めようとしているか分かる。 ・ミッション自体はざっくりとしたものでよい。 ・ミッションは、何のためなのか?形だけ文科省の要請に応えるのではない。 ・カリキュラムで具現化すべき マッピングが重要である。 <p>○中学の新しい制服の導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者の生徒に対して学校側がどのようにアプローチしていくのか。 ・中学高校両方で考えていく、意識していくのが大切である。 <p>○コミュニティ・スクール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの取り組みがどのように生徒に還っていくのか、成果の検証が必要である。(生徒の側から見よう。) <p>○クラブ活動の地域以降について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行は、国の政策をしっかりと確認。働き方改革の一環。内閣府の資料を要確認。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH2 期申請進捗状況について ・学校と企業コラボのスマホケースについて <p><u>第3回(令和5年2月21日(火))</u></p> <p>○学校教育自己診断に基づく学校関係者評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高とも評価が非常に高く、他校ではなかなか見られない。 ・「探究」は生徒が自分を見つめ直す良い取り組みである。 ・教員の指導が国公立大学進学に傾いている感じがある。 ・目標として「○○○大学○○人以上」は必要だが、大学が求めているのは目的意識を持った学生である。 ・部活動は、好きなことを見つけ、頑張る力を身につけるためのキャリア教育である。 ・部活動は大事な社会教育の一環だが、先生方が教科教育に専念できるよう、教員の増員を望む。 ・高校教員が中学生を教え、中学教員が高校生を教えるのは、負担ではあるがメリットは大きいだろう。 ・富田林中学から富田林高校へ進学しない生徒は何人ぐらいいるのか。 <p>○令和5年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席委員の承認を得た。 <p><u>第4回(令和5年3月4日(土))</u></p> <p>○今年度の学校経営計画の評価案と来年度の学校経営計画案を承認。</p> <p>○地域フォーラム(当日実施)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ10年くらいで御校生徒の社会性が大きく向上した。 ・生徒が学校文化を作って伝承しているようなイメージ(教職員が異動しても生徒間で継承) ・外来者も多く、親子連れも多数見られた。オープンキャンパス的な要素が強い。 ・普通科の中高6年間でどう教育していくかのモデルができつつある。 ・生徒から地域フォーラム取材班などを作って、どんどん発信していくべきである。 ・質疑応答のレベルは上げていく必要はある。(企業とのOJTを積んでレベル上げしてはいかがか。) ・他都道府県は農業系や水産系などの学校との横のつながりを大切にしている。 <p>○学校運営協議会を振り返って</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制服の導入についてもここでの意見を踏まえて、滞りなく実施できた。 ・今後、全国の中高一貫校との交流が必要である。例えば、リベラルな雰囲気のある学校と交流してはいかがか。 ・教職員の振舞いにも好意が持てた。 ・これからも子ども達が社会とつながって、よい学校を作ってほしい。

府立富田林中学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)</p> <p>ア 45分×7限授業(35単位時間(45分授業))により、2学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。</p> <p>エ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。</p> <p>オ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用するなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p> <p>カ 「一人一台端末」の効果的活用を進め、その情報共有を図る校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・45分×7限授業(中学校では週35単位時間)により、学校生活をデザインする。</p> <p>イ・各教員がスーパーサイエンスハイスクールであることを意識し、探究的要素を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業デザインができるよう研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。 中高合同の地域公開研究授業(DAY)を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け(授業交流週間 WEEKS)、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究を行う。 生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。 <p>ウ・毎朝始業前に10分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、中学校初期段階からリスニング力を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> オールイングリッシュでの体験をベースとした「イングリッシュキャンプ」等を1・2年生で実施する。 中学2・3年生全員に英語能力試験(外部試験)を実施する。 <p>エ・中高の各教科において、それぞれの3年間の学びを可視化し、それを学校案内パンフレットに反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究など他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する。 <p>オ・すき間時間を活用した学習方法(ICT活用等)を研究し、家庭での学習時間(通学時間等を含む)を増やす。その際、家庭学習記録を作成し可視化する。</p> <p>カ・オンライン学習研究委員会を中心に、校内体制の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT環境の一層の充実を図るとともに、全教科でICT機器を活用した授業を展開し、成果を生徒用学校教育自己診断で測る。 デジタル教科書を導入し、研究実践を行う。(一部教科) 家庭学習における効果的なICT活用方法を探る。 ICT教育先進校等の情報収集を行う。 	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒) 学校教育自己診断における授業満足度 90%以上を維持向上する。[92%]</p> <p>イ・(教員) 授業検討機会満足度 80%以上 [83%]</p> <ul style="list-style-type: none"> (教員) 学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業をしている。」90%以上[88%] (生徒向け) 深く考えさせる授業満足度 90%以上をめざす。 [93%] <p>ウ・(教員) グローバル教育推進度 90%以上 [83%]</p> <p>エ・学校案内パンフレットの内容を毎年見直しする。</p> <p>オ・(生徒) 学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」60%の維持向上をめざす。[60%]</p> <p>カ・(教員) 学校教育自己診断「生徒たちがタブレット等を活用した授業を行っている。」75%以上をめざす。 [75%]</p> <p>(生徒) 学校教育自己診断「授業以外でも、パソコンやタブレット等を利用した学習をしている。」65%以上をめざす。[65%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断結果における「わかりやすく興味を持てる授業が多い」の肯定率は89%(生徒)であり、ほぼ目標を達成できた。昨年度より数値が下がっているため、次年度は校内研修等を活用しながら授業内容の研究・改善に取り組みたい。(○)</p> <p>イ・授業検討機会満足度は90%で過去最高であった。具体的には、中高合同の全国(10月)及び地域(11月)公開研究授業を実施し、授業交流週間(5月・11月)を設けるなど各教科での研究授業を他教科からも授業観察がしやすい環境をつくったことが結果に結びついた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断結果における『主体的・対話的で深い学び』を意識して授業をしている』への肯定率は95%と過去最高を記録した。中高一貫したテーマを基に教職員研修を実施したことが結果に結びついた。(◎) 学校教育自己診断結果における深く考えさせる授業満足度は90%(生徒)で目標を達成した。(○) <p>ウ・学校教育自己診断結果におけるグローバル教育満足度は94%[100%]で目標を達成できた。今年度は新型コロナウイルス対応で、一定の制限がある中でも、イングリッシュキャンプや英語研修などを行ったことが結果に結びついた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学2・3年生全員に英語能力試験(外部試験)を実施した。また、本校の取組みを英語科による小中高対象の全国公開授業を行った。(11月) <p>エ・学校案内パンフレットの内容を見直した。また、研究テーマを中高共通で「思考力・判断力・表現力の育成のための教科指導と探究的アプローチの連結」とし授業改革に取り組んだ。今後は本年度の取組みを教科横断的な観点で内容の配置や精選に生かす。(○)</p> <p>オ・学校教育自己診断の結果における「家庭学習を平均して1日90分以上している」60%(生徒)目標は達成した。家庭学習の記録については生徒手帳に記入することで自己チェック、教員がチェックするなどして活用できた。今後は、学校教育自己診断の質問がICT、すき間時間の活用、個別最適化等に関連した内容が加味されるよう質問の見直しを図る。(○)</p> <p>カ・学校教育自己診断の結果における「学校は学習端末(タブレット)を効果的に使用している。(新規)」の肯定率が94%(生徒)、また保護者「子どもは一人一台端末(タブレット)を効果的に使っている。(新規)」の肯定率が81%(保護者)、「授業やホームルーム等で、タブレット端末を効果的に活用している。(新規)」で95%の結果であった。結果としては高水準であるため目標は達成したととらえることができる。(○)</p> <p>※学校自己診断の質問を改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部教科でデジタル教科書を導入し、研究実践を行った。 タブレットを毎日家庭に持ち帰らせることでICT活用を推進した。 ICT教育先進校等の情報収集を行いICTを活用した公開授業(10月)も行った。

府立富田林中学校

2 高い志をはぐくみ、 進路実現をめざす 取り組み	<p>(1)</p> <p>ア・スーパーサイエンスハイスクールとして「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO等）と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のための学力向上推進委員会が中心となって、様々な取り組みの具現化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・総合的な学習の時間の中で「探究」と「貢献」をキーワードとした教材を活用し、自己肯定感を高めるとともに将来の進路や生き方について考え、自ら切り開いていこうとする姿勢を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域外部サポーターを活用し、南河内探究、社会探究、課題提案探究について10月～3月での実施し、課題発見や課題解決能力を育成する素地を作る。 ・スーパーサイエンスハイスクールの取り組み強化策として総合的な学習の時間の中で、大学や高校教員による自然科学に関する専門的な講座を新たに開設することにより、自然科学探究への意欲・関心・態度を育成する。 ・総合的な学習の時間の中で将来の生き方や進路について考える機会3回以上設ける。（講座、講演、出前授業等） <p>イ・学力向上推進委員会を定例化し、機能強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員に学力推移調査等（外部試験）を実施し、将来の目標を早期に発見させる。 ・毎週火曜日の学習優先日に学習支援を実施する。 	<p>(1)</p> <p>ア・（生徒）学校教育自己診断における「総合的な学習の時間」の満足度85%以上の維持向上をめざす。 [86%]</p> <p>（生徒）将来の生き方や進路について考える機会満足度75%以上をめざす。[77%]</p> <p>イ・中高校学力向上推進委員会との連携による中高を通じた学力向上策として教職員研修の2回以上の実施をめざす。 [2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科での学力分析を行い、結果と対策について校内プレゼンテーションを1回以上する。 [1回] ・学力分析結果について保護者説明会を2回以上実施する。 [2回] ・広域外部サポーターとの連携により学習優先日に中学・高校教員、高校生、地域人材（大学生等）を活用した学習支援の20回以上の実施をめざす。 ・地域学校協働本部との協働による大学入試説明会の実施（1回以上）をめざす。 [1回] 	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断の結果における「総合的な学習の時間」の満足度は83%（生徒）であった。今後はカリキュラムの改善や教材の精選について検討し、85%以上の維持をめざす。（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の結果における「探究活動において社会や地域の課題について考える機会がある。」の肯定率が93%（生徒）であった。（○） ・スーパーサイエンスハイスクールの取り組み強化策として総合的な学習の時間の中で、自然科学に関する専門的な講座を新たに開設した。（○） ・学校教育自己診断の結果における将来の生き方や進路について考える機会満足度が81%（生徒）であり過去最高であった。企業協働による授業や未来セミナー（大学進入学説明会）が結果に結びついた。（◎） <p>イ・中高校学力向上推進委員会との連携による中高を通じた学力向上策として中高教職員研修（8月・12月）を実施した。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査を実施した成果としては、企業との連携により教員が分析し、学力向上に向けた課題を明確にできた（企業連携による教職員研修2回）。また、生徒との懇談・生徒対象の説明会を通じて具体的に学力向上策を指導できた。 さらに、分析結果を未来面談時（大学入試指導実績のある教員による面談）に活用し、将来の目標を早期に発見させる機会を設けた（10～11月）。 ・教員による学力プレゼンテーションを実施した（2月）。 ・学力に係る保護者説明会を実施した。（6月・2月予定） ・未来塾（教員、大学生等による学習支援 15回 数学・英語[新規]）、TonTon スタディ（高校生による学習支援5回）、企業協働による学習支援（数学[新規] 12回）を実施した。（◎） ・地域学校協働本部及び企業との協働による未来セミナー（大学進入学説明会）を実施した。（○）
------------------------------------	---	---	--	--

府立富田林中学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み</p>	<p>(1) ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励し文武両道をめざす。</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) ア 国際交流(台湾、マレーシア、ベトナム、タイ、オーストラリア等)の充実及び新たな交流国の開拓</p> <p>イ・台湾姉妹校や、高校との連携による高校姉妹校との交流の継続</p> <p>・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</p>	<p>(1) ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。</p> <p>① 文化祭・体育祭における準備委員会を高校生と協働で活性化させる。</p> <p>② 体育祭実施において、伝統を継承しつつ、新たな形態を作り上げる。</p> <p>③ 修学旅行等を3年間見通した計画を立てることで、内容の充実を図る。</p> <p>・中高合同の部活動指導の拡大を図る。</p> <p>・部活動への参加を奨励し、文武両道をめざすとともに中高一貫した指導体制を整える。</p> <p>イ・中学校段階に相応しい人権及び生徒指導研修を計画・実施する。</p> <p>・挨拶、遅刻指導の充実と基本的な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>ウ・生徒自らが課題を見つけ、自分自身や仲間とともに解決していこうとする力を育てる。中心となる活動として「マークハート運動」を実施し、学校全体で取り組む。</p> <p>・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づきいじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>・演劇的な手法を用いてコミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>(2) ア・高校との連携も含め、台湾やマレーシア、オーストラリア、タイをはじめとする様々な国の生徒との交流の可能性を探る。</p> <p>イ・台湾姉妹校交流方法を工夫改善し、異文化を理解する態度をはぐくむ。</p> <p>・高校との連携により高校姉妹校との交流を図る。</p> <p>・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にして実施する。(中学ではマレーシア等でグローバルリーダー育成海外研修旅行を企画し、世界的な視野を広めるとともに、多様性を理解しようとする態度をはぐくむ。)</p> <p>※新型コロナ禍において、海外研修等海外への旅行の可否に関わらず実施可能なグローバルプログラムを検討し、実施する。</p>	<p>(1) ア・体育祭の体育館(収容人数の大)での形態について検討し、実施する。</p> <p>・部活動加入率 90%以上をめざす。[86%]</p> <p>イ・課題に合致した人権研修の実施。</p> <p>・人権教育推進委員会を定例で開催し(週1回)中高系統性のある指導を行う。</p> <p>・中高制服検討委員会を設置し、多様性理解に基づいた制服デザインの検討を行う。</p> <p>ウ・「マークハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取組みについて12月実施をめざす。</p> <p>・(生徒)学校教育自己診断結果における「いじめ対応」に対する満足度90%以上維持をめざす。[94%]</p> <p>・(生徒)学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「相談できる先生」60%以上、「相談できる友達・先輩後輩等」80%以上をめざす。[63%, 86%]</p> <p>・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成の取組みについて文化祭(6月)での発表をめざす。</p> <p>(2) ア・多くの生徒が海外の中・高校生との2カ国以上の交流をめざす。[1ヶ国]</p> <p>イ・コロナ禍において国内への修学旅行についても検討し、台湾の姉妹校と今後の交流についてICTを活用した意見交換を行う。</p> <p>・コミュニティ・スクールのしくみを活用しグローバルリーダー育成海外研修の実施について、新型コロナ禍における実施可能なグローバルプログラム検討について定例的な開催(年3回以上)をめざす。(コロナ感染状況により国内での交流(1回以上)もありうる)[新規]</p>	<p>(1) ア・体育祭を大阪府立体育会館で実施した。(○)</p> <p>学校教育自己診断の結果における学校行事満足度96%(生徒)及び95%(保護者)。</p> <p>・部活動加入率は80%であった。国・府の動向を踏まえた部活動経営の現状を鑑み、評価指標を見直す。(△)</p> <p>イ・いじめの未然防止の観点から「専門家(弁護士)によるいじめ授業」を実施[新規]した(11月)。(◎)</p> <p>・人権教育推進委員会を定例で開催し(週1回)中高系統性のある指導を実施した。(○)</p> <p>・現在の制服に加え、多様性理解に基づいた新たな制服デザインを作成し、令和5年度より採用する予定。(○)</p> <p>・学校教育自己診断の結果における「学校の人権教育」肯定率94%(生徒)91%(保護者)</p> <p>ウ・「マークハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取組みについて生徒たち自らがテーマを設定しクラスごとに取り組み、生徒会では端末の利用におけるいじめ問題について話しあい、成果発表を行った。(12月)(○)</p> <p>・学校教育自己診断の結果における「いじめ対応」に対する満足度85%であった。今年度実施した「いじめ対応に係る教職員研修[新規](9月)」の課題解決に向けた実践力を養うとともに、生徒が自ら課題を解決していこうとする力の育成方法を検討する。(△)</p> <p>・悩み相談の満足度「相談できる先生」62%であり目標は達成できた。(○)</p> <p>・悩み相談の満足度「相談できる友達・先輩後輩等」80%であり目標は達成できた。(○)</p> <p>・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成の取組みについて文化祭(6月)で発表した。(○)</p> <p>(2) ア・コロナ禍の中、多くの生徒が海外の中・高校生との2カ国以上(台湾、トルコ)の交流を実施した。(○)</p> <p>イ・修学旅行先の台湾姉妹校とは交流ができた。(○)</p> <p>・コミュニティ・スクールのしくみを活用しグローバルリーダー育成海外研修は国内でイングリッシュキャンプアドバンスとして、地域連携(富田林寺内町)により実施した。(○)</p> <p>・学校教育自己診断「グローバル教育」満足度は94%(生徒)、92%(保護者)であった。今年度も海外修学旅行や海外研修はコロナの影響により実施できなかったが、校内でのイングリッシュキャンプや、トルコとのオンライン交流、JICAから派遣された外国人スタッフとの交流など、国内でできる英語交流を通じて、一定の満足感を得ることができた。今後は可能な限り海外での研修等についての機会を情報提供する。</p>
---	---	---	--	---

府立富田林中学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を策定すべく、それぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。</p> <p>イ 全国の中高一貫校やSSH校、コミュニティ・スクールにおける教育先進校等を視察するなど、先進的な取組みに学び、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。</p> <p>ウ 中高一貫校として、またSSH指定校として相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。</p> <p>(2) ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>イ 安全・安心な学校づくりに努める。</p> <p>ウ 地域貢献を推進する。</p>	<p>(1) ア・「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」の策定に取り組み、共通認識を図る。</p> <p>・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。</p> <p>イ 全国の先進中高一貫校・SSH校・コミュニティ・スクール校等の先進的な取組みを視察・情報収集等を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。</p> <p>ウ・前年度に全面改訂した学校Webページを随時改修し、各組織においては定期的な情報更新に努める。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会を設置し、学校運営や学校の課題に対して、教育課程を社会に開きより多くの方が学校運営に参画できるように努める。</p> <p>・コミュニティ・スクールについて情報収集を行う。</p> <p>・コミュニティ・スクール推進委員会を組織し「めざす学校像」の共有化を図り、中高一貫した取組みを進める。</p> <p>イ・教員だけでは対応できない教育課題（ヤングケアラー等を含む）解決のための人材（SC、SSW、識者等）を「学校支援チーム」に効果的に配置する。</p> <p>・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。</p> <p>・安否確認等を迅速に行えるよう、適当な時期に想定訓練を実施する。</p> <p>ウ・広域外部サポーターを活用し、地域を知るとともに地域の課題を発見させる。</p> <p>・コミュニティ・スクール広域外部サポーターとの連携を基礎に、課題を見付け、その解決に向けて生徒が協働的に取り組み、成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表する。</p> <p>・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。</p> <p>・地域貢献活動を実施する。</p>	<p>(1) ア(保護者)教育方針の明確化(新規) (教員)教育理念・運営理念の明確化(新規) (教員)分掌・教員間での中高連携満足度50%以上をめざす。[25%]</p> <p>イ 先進校等の情報を収集し、職員会議等での情報共有(2回以上)をめざす。[2回]</p> <p>ウ(保護者)学校教育自己診断における情報発信の満足度90%以上を維持する。[88%]</p> <p>(2) ア・学校運営協議会を設置し、取り組み内容についてより多くの方が学校運営に参画した熟議開催(2回以上)をめざす。[3回]</p> <p>・学校運営協議会委員が教育活動に係り教育活動を推進するCS協議会を年3回開催するより企業等との連携を充実させる。</p> <p>イ・専門家人材(SSW、SC、識者等)を活用し、機関連携や研修・講演等の1回以上の実施をめざす。[1回]</p> <p>・連絡手段体制を確立し、想定訓練等の1回以上の実施をめざす。[1回]</p> <p>ウ・(生徒向け)社会貢献意識育成満足度90%以上を維持する。</p> <p>・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動の1回以上の実施をめざす。[0回]</p> <p>・寺内町フィールドワーク実施(1回)[新規]</p> <p>・河川清掃などの地域でのボランティア活動の1回以上の実施をめざす。[0回]</p>	<p>(1) ア・スクール・ミッションについては、中高合同で協議し策定した。(○)</p> <p>・校自己診断結果による「学校は教育方針をわかりやすく伝えている。」91%(保護者) (◎)</p> <p>・学校自己診断結果による「本校の教育理念や目標を意識して活動している。」が95%(教員)であり教員に教育方針が浸透している。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断における分掌・教員間での中高連携満足度は68%であり過去最高であった。中高合同の委員会組織の実働が結果につながっている。(◎)</p> <p>イ・西京高等学校附属中学校、並木中等教育学校(2月予定)の2校を視察した。(○)</p> <p>ウ・学校教育自己診断における情報発信の満足度は89%(保護者)であり概ね達成できた。(○)</p> <p>(2) ア・学校運営協議会を設置し、取り組み内容について熟議を開催し積極的に意見をいただいた。(熟議4回開催予定(内2回は2・3月予定)(○))</p> <p>・CS協議会を年3回開催し探究活動の充実を図った。(○)</p> <p>・多様性対応をめざした制服検討委員会を学校運営協議会と協働開催し、課題解決にあたった。(◎)</p> <p>・学力向上、授業改革について学校運営協議委員の協働により研修会を開催した。</p> <p>イ・専門家人材(SSW、SC、弁護士)による学校支援チームを活用し、機関連携や研修(7月)・講演(11月)・授業(11月)を行った。(◎)</p> <p>今後も学校で生起する様々な問題に対して、専門家の視点からの指導助言を受ける機会を確保していく。</p> <p>次年度も2回以上の研修をめざす。</p> <p>・安否確認を想定した避難訓練を2回実施した。(○)</p> <p>ウ・学校自己診断による社会貢献意識育成満足度94%(生徒)となり、目標を達成した。(○)</p> <p>広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)を活用し、南河内探究、社会探究、課題提案探究について10月～3月で実施したことが結果につながっている。</p> <p>今後もカリキュラム内容を見直し改善を図っていく。</p> <p>・大阪府生徒会サミット(11月)に加え、富田林市生徒会サミット(7月)に参加し、地域の中学校と連携を行った。(◎)</p> <p>・寺内町フィールドワーク実施し、地域の歴史や文化を積極的に知る機会を設けた。(○)</p> <p>・石川大清掃(河川清掃)でボランティア活動を実施した。(3月)</p>
---	--	---	--	---

府立富田林中学校

<p style="text-align: center;">5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。</p> <p>イ 校務の見直しによる業務の軽減化</p> <p>ウ 「外部人材の活用等人的措置」により教職員の負担軽減を図る。</p>	<p>(1) ア 各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、本校のノー残業デーである金曜日に掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促す。</p> <p>イ・校務（事業等）を見直すことで業務の軽減化を図る。</p> <p>ウ・教育課題解決のための人材（SC、SSW、学生サポーター等）を「学校支援チーム」として効果的に配置することにより教職員の負担軽減をはかる。</p>	<p>(1) ア・（教員向け）生徒や教職員への安全管理満足度 75%以上をめざす。 [75%]</p> <p>イ・校務の見直し等を検討する安全衛生委員会の年5回以上の開催をめざす。 [3回]</p> <p>ウ・「学校支援チーム」連絡会議の3回以上の開催をめざす。 [3回]</p> <p>ア、イ、ウとも、（教員向け） 大学生・民間人等の支援による教育活動充実度 50%以上維持をめざす。 [42%] （教員向け）学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度 90%以上の維持をめざす [83%]。</p>	<p>(1) ア・学校自己診断における「生徒や教職員への安全管理は適切である」の肯定率は84%であり過去最高であった。(◎) ノー残業デーの曜日等については見直しを図る。</p> <p>イ・下記について校務の見直しを図り効率化を行った。(○) 職員会議資料ペーパーレス化 事前提出ルール化 連絡、資料配布・説明の電子化 職員間共有事項の電子掲示板化 ICT 機材の一括管理 時間外の外線電話の受付中止 欠席連絡の効率化 保護者への文書配布のデジタル化 会議の精選（PTA 会議等） ※安全衛生委員会については回数を指標としていたが会議の回数を確保することが業務改善につながるかどうかも含め再検討していく。</p> <p>ウ・「学校支援チーム」連絡会議を3回以上開催した（1回/月）。 また、緊急支援体制も構築できた。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断結果における大学生・民間人等の支援による教育活動充実度の肯定率は79%（教員）であり目標を達成した。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度への肯定率74%であり目標を下回った。開校から6年経つが完成に向けての過渡期であり、中高一貫校ならではの会議、業務が多い。また、今年度は教育課題への臨時対応が多かった。業務が定着しルーティン化するにはもう少し時間が必要である。今後は原因を分析し向上をめざす。(△) 次年度は特に全校一斉退庁日、学校閉庁日の拡大、アンケート電子化等を徹底したい。</p>
---	---	---	---	---